

みよし市授業支援ソフト・学習ドリル導入業務及び小中学校 I C T 支援員業務委託 仕様書

1 目的

G I G A スクール構想の実現において、学習の基盤となる資質・能力の一つとして情報活用能力が重要視されている学習指導要領の趣旨を踏まえ、オンラインドリル教材等を活用した学習が進められている。本市でも、小中学校に配備した 1 人 1 台タブレット端末の整備を行うとともに、I C T 支援員を配置し、学校教育の I C T 化を推進してきた。

このような中で、教員・児童生徒とも I C T 活用能力の向上、A I 解析により、個に応じたそのつまずきを効果的に解消するとともに、専門的な知識を有する更なる支援体制が必要となってきた。

これらを踏まえ、更なる学びの充実と学力向上を図るため、授業支援ソフト及び学習ドリルソフトを更新する。また、小中学校における情報教育の推進及びタブレット端末や大型提示装置等の機器の活用促進と円滑な運用及び管理のために、I C T 支援員を各小中学校に配置する。

2 業務期間

令和 8（2026）年 4 月 1 日から令和 1 3（2031）年 3 月 3 1 日まで

3 委託料の支払方法

- (1) 各年度払いとする。
- (2) 発注者による検査合格後、受注者からの請求に基づき、請求日から 3 0 日以内に支払うものとする。

4 I C T 支援員委託業務の履行場所

- (1) 中部小学校 みよし市三好町宮ノ越 3 1 番地
- (2) 北部小学校 みよし市根浦町三丁目 9 番地 4 7
- (3) 南部小学校 みよし市明知町上細口 2 7 番地
- (4) 天王小学校 みよし市三好町天王 5 1 番地 7 5
- (5) 三吉小学校 みよし市三好町半野木 1 番地 2 7
- (6) 三好丘小学校 みよし市三好丘七丁目 1 番地
- (7) 緑丘小学校 みよし市三好丘緑一丁目 1 番地 1
- (8) 黒笹小学校 みよし市黒笹いずみ三丁目 2 6 番地 1
- (9) 三好中学校 みよし市三好町宮ノ越 4 2 番地
- (10) 北中学校 みよし市三好丘桜一丁目 1 番地 1
- (11) 南中学校 みよし市打越町三百目 3 番地
- (12) 三好丘中学校 みよし市三好丘二丁目 1 4 番地 1 0

5 ICT支援員業務委託の内容

学習指導要領に基づき、市内小中学校において、次に掲げるICT活用支援業務（従事するICT支援員の指導及び研修、管理などを含む。）及び、その運営の一切の業務。

(1) 訪問回数及び訪問日

- ア 契約期間中の訪問回数は1校につき年間48回の合計576回（年間）とする。
なお、契約締結後、各学校と毎月の訪問回数を調整することとする。
- イ 上記とは別に、打合せの日を1校につき年3回もつこと。
- ウ 業務実施日は月曜日から金曜日（祝日、年末年始及び8月中の学校閉校日を除く。）とすること。
- エ 訪問日については各学校と調整の上、翌月の訪問予定を前月の25日までに発注者へ報告すること。
- オ ICT支援員は担当校制とし、原則各学校同一人物が訪問すること。
- カ ICT支援員が不在の際の質問等は、情報担当の教員（窓口担当）がとりまとめをし、ICT支援員の次回訪問の際に対応できるようにすること。
- キ ICT支援員の病気等の事由により、訪問予定日に訪問し難い場合は、速やかに担当校に連絡し、代替日などを訪問校と協議するものとすること。
- ク 天災、インフルエンザ、その他の事情で当日に、発注者側による急な休校とした場合は、振替による学校訪問を行う又は代替業務に変更するかを発注者と別途協議すること。

(2) 訪問時間

- ア 訪問時間は、午前8時30分から午後5時30分までの間の連続した7時間45分（休憩45分含む。）とすること。
- イ 1校につき1日終日滞在とすること。ただし、やむを得ない事由により7時間45分滞在が困難な場合はこの限りでない。

(3) 管理業務

- ア 受注者は、各学校にICT支援員を配置し、ICT支援員が十分に学校の支援を行えるようICT支援員とは別にICT支援員の業務を統括する「統括責任者」1名を設けること。
- イ 「統括責任者」は、全体を統括するコーディネータ的な役割を果たし、ICT支援員が十分に学校支援を行えるように、ICT支援員の管理、業務状況の把握、指示、指導、助言等の管理及びサポートを行うこと。
- ウ ICT支援員の配置後も、「統括責任者」を中心に定期的な研修会を実施すること。研修会では、各学校での支援内容の共有、模擬授業や教育知識のための研修等を行うこと。

(4) ICT支援員による業務

- ア 授業支援
 - (ア) 授業開始前のICT機器などの設定、動作確認及び設置等の授業準備支援を行う

こと。

- (イ) ICTを活用した教材及び他校の実践事例の紹介、ICTを活用した授業提案を行うこと。
- (ウ) 主体的及び対話的で深い学びに繋がる授業づくり支援の実現のため、教員の発問に関連するガイド等と連動した指導事例の提案を行うこと。(ガイドについては、大学教授などの有識者監修のものであること。)
- (エ) 授業で使用するワークシート、教材等の作成支援を行うこと。
- (オ) 授業中のICT機器等の操作支援(教員及び児童生徒)を行うこと。
- (カ) 児童生徒向けの操作説明書、掲示物の作成支援を行うこと。
- (キ) プログラミング教育に関連する授業を支援すること。

イ 研修支援

- (ア) ICT機器の活用促進に向けたハードウェアの使い方に関する支援
- (イ) ソフトウェアの校内研修会(全体及び少人数)の企画、準備、実施支援
- (ウ) 新学習指導要領を踏まえ、ICTを活用したプログラミング授業実践のための教員を対象とした研修支援
- (エ) プログラミングに関わる研修は、次に掲げる内容を含むこととする。
 - a 系統的にプログラミング学習を行うための、「情報活用能力育成の段階表」に沿った指導の理解
 - ※「情報活用能力育成の段階表」については別紙1のとおり
 - b 教員用の「指導案」、「指導のポイント」、「指導用スライド」、児童生徒用の「ワークシート」、「振り返りプリント」を活用した授業
 - c 指導案に沿った授業の補助教材として教員が授業の進行に使用できる投影のデジタル教材を活用した授業

ウ 校務支援

- (ア) 個人情報を取扱う業務については原則行わないものとする。やむを得ず実施する場合は教職員の監視のもとで行うものとし、ICT支援員が単独で行うことは禁止する。
- (イ) マクロ処理の構築等、プログラミング的な要素を含む業務は校務支援業務に含まないものとする。
- (ウ) Microsoft365についての質疑に答えられること。

エ 障害対応支援

訪問時にICT機器の障害が発生した場合の一次対応及び現象切り分け支援や原因が判明している簡易なICT機器の不具合に対する処理(教員の立会いのもと行うこと。)

オ その他

ICT支援員は統括責任者の業務指示を受けて業務を行うこと。

6 業務を円滑に進めるための基盤及び仕組み

- (1) 受注者は、業務を円滑に進め、また I C T 支援員の適切な管理を行えるよう、受注者内部において情報共有や事例共有を行う社内 Web サイト等の仕組みを整えること。
- (2) 授業で実践した優良事例について、授業実践報告書にて市内シェアポイントで共有を図ること。

7 要件

(1) 支援員の要件及び配置

ア I C T 支援員は、次に掲げる内容を含めた 2 4 時間以上の研修を修了していることとする。

(ア) 著作権、個人情報に関する研修

(イ) 学校及び教員の全般的状況、指導要領等の教育的知識に関する研修

(ウ) 模擬授業実践を含む授業支援の研修

(エ) 導入ソフト・ドリルの操作方法に関する研修

(オ) 技術研修（ホームページ作成技術、ネットワーク知識等を含む。）

イ I C T 支援員は、3 人以上で勤務シフトを組むこと。ただし、急遽やむを得ない事情があるときはこの限りではない。

ウ 委託期間内に途中で I C T 支援員が交代する場合は、I C T 支援員の交代が確定した時点で発注者に連絡し、今後の対応について協議すること。

(2) 資格要件

ア 統括責任者又は I C T 支援員に教育情報化コーディネータ 3 級以上を保有している者が 1 名以上在籍していること。

イ 配置する支援員の中には、統括責任者を含めて経験年数 5 年以上の者が 1 名以上在籍すること。

8 学習用クラウドサービスの提供

授業支援ソフト・学習ドリルについて、ライセンスを調達し、アカウント発行等を実施すること。なお、年度途中の転出入で児童生徒数が増減すること等も想定し、児童生徒数及び教職員数が増減した場合であっても、本契約金額の変更は行わない。

(1) ライセンス数

※令和 7（2025）年 5 月 1 日時点

ア 児童生徒数 5, 3 9 8 人

イ 教職員数（本務者） 3 8 2 人

ウ 教育委員会 5 人

(2) 利用場所

みよし市立小中学校のほか、児童生徒の自宅、みよし市教育センター、本市教育委員会事務局等

(3) 利用環境

ASP版（クラウドサービス）で提供され、WindowsOS、ChromeOS、及びiPadOSのいずれでも動作し、Microsoft Edge、Google Chrome、Safariのブラウザに対応していること。

(4) 機能要件

「機能要件確認表」のとおり。

9 クラウドサービスの利用支援

(1) 教員研修

受注者は、利用開始にあたってすべての教員がスムーズにシステムを利用することが可能となるように、操作等に係る研修を企画・実施すること。なお、時期や内容については、協議の上決定する。

(2) 資料提供

基本的な操作方法や機能についてのマニュアルを提供すること。また、操作場面や機能ごとの動画やチラシなど、教員が確認しやすい体裁の資料を提供するとともに、活用事例についても提供すること。

(3) サポート対応

月曜日から金曜日の午前9時から午後5時まで、電話による問合せに対応する窓口を設置すること。但し、祝日は除く。

(4) 設定業務

ア 学習用クラウドサービスの初期設定を行うこと。

イ 本提案で導入予定のソフト等について、本市の児童生徒用1人1台タブレットの環境で問題なく稼働することの設定条件の提示を稼働開始前に発注者に行うこと。

ウ 準備期間中に問題なく児童生徒用1人1台タブレットで稼働する検証を行うこと。

エ 必要に応じて、本提案とは別に契約を行っている端末導入設定業者と協力をを行い、それに係る費用を本提案に見込むこと。本市のGIGAスクール1人1台タブレットの稼働環境は下記のとおり。

(ア) 端末 iPad

(イ) フィルター デジタルアーツ iFilter クラウド

(ウ) MDM Jamf Pro

(エ) 次期1人1台タブレットに関する構成プロファイル作成時期
令和7(2025)年9月から12月(予定)まで

10 セキュリティ対策

(1) 業務の実施に当たっては、関係法令及び「みよし市情報セキュリティポリシー」を遵守すること。

(2) 児童生徒に係るデータを管理するため、インターネットを経由するすべての通信に対し、TLSによる暗号化を行っていること。

(3) 受注者は、本市が求めた場合は、アクセスログやその統計情報をまとめて提供するこ

- と。また、アクセスログ情報を、一定期間は閲覧可能な状態で保管すること。
- (4) マルウェア対策ソフト等により、多層防御を行っていること。

1.1 提出書類

受注者は、次の書類を発注者に提出すること。

- (1) 管理技術者通知書（経歴書を添付し、契約締結後5日以内）
※受注者との雇用関係が分かる書類を添付すること。
- (2) 年間業務計画書（契約締結後5日以内）
- (3) 工程表（契約締結後5日以内）
- (4) 5(3)で定める「統括責任者」を含む、本仕様書に基づく契約において配置するICT支援員の名簿（契約締結後速やかに）
- (5) 7(2)ア・イに定める資格を確認できるもの（コピー可。）（契約締結後5日以内）
- (6) ライセンス証明書
- (7) 実績報告書(月例報告書)（翌月20日まで）
※ただし、3月分は3月31日までとする。
※完了時に再度実績報告書をPDFにして提出すること。
- (8) 完了届、作成図書目録（業務完了時）
- (9) その他業務の実施に当たり作成したマニュアル、成果報告書の成果物にかかる著作権は受注者が保有するものとするが、事前に協議の上、発注者においても成果物を使用又は複製し、公表することができるものとし、契約の履行におけるみよし市独自の成果物については、当該成果物に係る受注者の著作権を当該成果物の引渡し時に発注者に無償で譲渡するものとする。なお、当該成果物は、1.1(7)に掲げる実績報告書(月例報告書)及び1.1(8)に掲げる完了届に添付し、提出するものとする。

1.2 契約に係る注意事項

- (1) 契約締結日から令和8(2026)年3月31日までの間は準備期間とし、令和8(2026)年4月からの業務に備えること。なお、この期間における委託料は発生しないものとする。
- (2) 準備期間中にはICT活用状況の把握や運用方法の確認、令和8(2026)年4月以降の支援業務の打合せ等、学校毎に確認を行うこと。その他、情報セキュリティポリシーや情報モラルを考慮した運用見直しや、iPad本体や学習支援ソフトの年度更新作業等を行うこと。
- (3) 受注者による設計品質、開発品質及び運用品質等の不適合によるリスクについては、受注者のリスク負担とし、適合するまで責任を持って業務を遂行するものとする。
- (4) 本仕様書に記載がない事項のうち、社会通念上、導入において必要不可欠な事項と発注者が判断するものについては、本業務委託の範囲内とする。

1 3 個人情報の取扱いに関する事項

受注者は、この契約による業務を行うに当たり、個人情報（特定個人情報（個人番号をその内容に含む個人情報をいう。）を含む。）を取扱う場合においては、みよし市業務委託契約約款に定める内容を遵守すること。

1 4 その他

- (1) みよし市業務委託契約約款第5条（著作権の譲渡等）の規定については、同約款の定めにかかわらず、11(8)を優先し、発注者は、受注者から承諾を得ることで、成果物を使用、複製、公表できるものとする。
- (2) みよし市業務委託契約約款第9条(管理技術者)に規定する管理技術者については5(3)アに規定する統括責任者と兼務させることができる。
- (3) 受注者は、この契約による業務を行うに当たり、受注者の責めに帰すべき事由により発注者及び業務履行場所に損害を生じさせた場合は、速やかに必要措置を講じることとし、それにかかる費用は受注者の負担とする。
- (4) 本契約に定めのない事項又は本契約の解釈に関し疑義が生じた事項については、発注者及び受注者間で協議の上これを解決するものとする。

みよし市版 情報活用能力育成の段階表

項目	概要	学習内容	低学年		中学年		高学年		中1年	中2年	中3年	
			1年	2年	3年	4年	5年	6年				
基礎的な知識・技能	【観察実験】	撮影、編集	○身近な事象から情報を集めて、目的に応じて発信する。	○身近な事象からの情報収集し、 相手 や目的に応じて発信することができる。	○学校内外の事象や図書資料、 インターネット などから情報を集めて吟味し、相手や目的に応じて発信しようとする。	○学校内外の事象や図書資料、 インターネット などから情報を集めて吟味し、相手や目的に応じて発信する。	○各教科において、図書やインターネットなどから、情報を複数集めて、 正しい情報かどうかを判断し 、まごためり発信したりする。	○自分に必要な情報をインターネット等を通じて収集し、その中から 自分に必要な情報を適切に選択 を行う。	○学校外の事象や図書資料・インターネットなどから情報を複数集めて 吟味し 、 相手や目的に応じて発信 する。	○学校外の事象や図書資料・インターネットなどから情報を複数集めて 吟味し 、 相手や目的に応じて発信 する。	○学校外の事象や図書資料・インターネットなどから情報を複数集めて 吟味し 、 相手や目的に応じて発信 する。	
	【情報収集】	図書資料 インターネット	写真の撮影 スクリーンショット 動画の撮影	画像編集 (トリミング、文字の書き込み) ペイント系アプリケーション (SketchesSchool)の操作	動画撮影	キーボード操、本の分類	文字入力では、 1分間に20文字	文字入力では、 1分間に30文字	文字入力では、 1分間に40文字	文字入力では、 1分間に50文字	文字入力では、 1分間に60文字	文字入力では、 1分間に70文字
	【分かりやすく伝える】	新聞 リーフレット オクリンク	オクリンク提出BOX	写真・動画 オクリンク提出BOX	レポート作成 (文書作成アプリ) 簡単なプレゼンテーションスライド作成			取捨選択した情報をもとに、文書作成アプリやプレゼンテーションアプリ等を用いて、相手に応じて効果的に発信する。				
思考・判断・表現力等	【情報の整理・分析】	問題発見 問題解決 情報の吟味	○身近な事象から情報を収集して分類・整理し、意見をまとめて表現する。	○身近な事象から情報を収集して整理・分類し、 相手 を慮り して分かりやすく 表現する方法を振り返り、できるよくなったことに気づく。	○調査や資料等から情報を収集し、 情報同士のつながり を見つたり、 表やグラフ を用いて整理する。 相手に合わせて適切に表現 する。 ○相手に合わせて表現する。自ら情報活用を振り返り、どのように改善をしていけば良いのか考える。	○調査や資料等から情報を収集し、情報同士のつながりを見つたり、表やグラフを用いて整理する。 相手に合わせて適切に表現 する。 ○自らの情報活用を振り返り、改善の仕方を考える。	○図書やインターネットから情報収集を行い、 情報を精選し関連付けて 課題を解決する。また、表やグラフを用いたり、イラストや写真を用いたりすることでより効果的に表現する。 ○自らの情報活用を振り返り、改善点を分析し考える。	○問題を発見し、その解決のために 目的に合った情報メディアを選択 し、調査や実験等を組合せながら情報を収集する。目的や状況に合わせて 統計的に整理したり、情報の傾向や変化を捉えたり、問題の解決策を明らかにしたり する。情報及び情報技術の活用を振り返り、改善点を分析し考える。	○問題を発見し、その解決のために、 目的に合った情報メディアを選択 し、調査や実験等を組合せながら情報を収集する。目的や状況に合わせて 統計的に整理したり、情報の傾向や変化を捉えたり、問題の解決策を明らかにしたり する。情報及び情報技術の活用を振り返り、改善点を分析し考える。	○問題を発見し、その解決のために、 目的に合った情報メディアを選択 し、調査や実験等を組合せながら情報を収集する。目的や状況に合わせて 統計的に整理したり、情報の傾向や変化を捉えたり、問題の解決策を明らかにしたり する。情報及び情報技術の活用を振り返り、改善点を分析し考える。	○問題を発見し、その解決のために、 目的に合った情報メディアを選択 し、調査や実験等を組合せながら情報を収集する。目的や状況に合わせて 統計的に整理したり、情報の傾向や変化を捉えたり、問題の解決策を明らかにしたり する。情報及び情報技術の活用を振り返り、改善点を分析し考える。	
	【分かりやすくまとめる】	メディアの特性	カードの連結 ドリルパーク アプリの活用	共通と相違、順序などの情報の関係性を調べる (ムーブノート)	情報源の吟味	棒グラフを読み取る 棒グラフにまとめる	グラフの選択	確かな情報源、複数の情報源による情報の信用性の確保	確かな情報源、複数の情報源による情報の正確な判断	確かな情報源を根拠に、自分の考えを表現		
	【振り返り】	省察の技能	ボイスメモ マイboxへの保存					相手・内容に合わせたまとめ方発表方法の選択	表やグラフ、画像や動画を使ってプレゼンテーションを作成する。	振り返りを電子データとして、タブレット端末やクラウドに保存し、授業で学んだことや今後の課題について自己で評価・分析することができる。		
プログラミング教育	【プログラミング的思考】	分解 順次 分岐 反復	○問題の解決や表現活動の際には手順があることを知る。	○体験や活動から 疑問をもち、解決の手順を気づいたり、分析して どのような手順の組み合わせが必要かを考えたりして実行することができる。	○問題解決や表現活動の際に、 コンピュータとプログラミングの関係 を体験的に知り、順次、分岐、反復を含んだ簡単なプログラムの作成ができる。	○問題解決や表現活動の際に、 コンピュータとプログラミングの関係 を体験的に理解し、順次、分岐、反復を含んだプログラムの作成を行い、 評価・改善 ができる。	○自ら課題を見つけ、プログラムの仕組みを知ろうとしたり体験の中でプログラミングの理解を深め、順次、分岐、反復を含んだプログラムの作成を行い、 評価・改善 ができる。	○ コンピュータとプログラムの関係を体験的に理解 し、順次、分岐、反復を含んだプログラムを作成し、それに対して評価・改善を行うことができる。	○問題解決や表現活動の際、 論理的な手順 やデータを様々な工夫でできることを体験的に理解すること。情報技術の発展を社会や将来に関連付けて考えることができる。	○問題解決や表現活動の際、 論理的な手順 やデータを様々な工夫でできることを体験的に理解すること。情報技術の発展を社会や将来に関連付けて考えることができる。	○問題解決や表現活動の際、 論理的な手順 やデータを様々な工夫でできることを体験的に理解すること。情報技術の発展を社会や将来に関連付けて考えることができる。	
	【プログラムの作成】	試行錯誤 情報社会	順次・分岐・反復を用いて単純な動きを思考。 ・viscuitで好きな絵を描く ・順次・分岐・反復の基本を作成 ・マウスでの操作	・分解して考える。 ・順次・反復を考える。 絵の順次・分岐・反復のプログラミング作成 (ScratchJr, viscuit)	順次・分岐・反復を用いた思考 (国語辞典、大きな数) ・磁石と電気による分岐を用	順次・分岐・反復のプログラムを作成する (情活) ・順次、反復を使ってリズムづくりをする。	順次・分岐、反復のプログラムを作成する。 ・順次、分岐、反復のプログラムを作成する (scratch)	数や式を用いて説明したり、物質の基礎的な性質に基づいた考察を行ったりして、論理的な思考、説明を行う (数学科、理科等)	数や式を用いて説明したり、物質の基礎的な性質に基づいた考察を行ったりして、論理的な思考、説明を行う (数学科、理科等)	数や式を用いて説明したり、物質の基礎的な性質に基づいた考察を行ったりして、論理的な思考、説明を行う (数学科、理科等)	数や式を用いて説明したり、物質の基礎的な性質に基づいた考察を行ったりして、論理的な思考、説明を行う (数学科、理科等)	
			・順次・分岐・反復のプログラムを作成する (scratch)					数や式を用いて説明したり、物質の基礎的な性質に基づいた考察を行ったりして、論理的な思考、説明を行う (数学科、理科等)	数や式を用いて説明したり、物質の基礎的な性質に基づいた考察を行ったりして、論理的な思考、説明を行う (数学科、理科等)	数や式を用いて説明したり、物質の基礎的な性質に基づいた考察を行ったりして、論理的な思考、説明を行う (数学科、理科等)	数や式を用いて説明したり、物質の基礎的な性質に基づいた考察を行ったりして、論理的な思考、説明を行う (数学科、理科等)	数や式を用いて説明したり、物質の基礎的な性質に基づいた考察を行ったりして、論理的な思考、説明を行う (数学科、理科等)
情報モラル (デジタルシティズンシップ)	安全かつ適切に情報手段を使って、よりよい情報社会を創ろうとする知識と態度	情報と健康 セキュリティ 著作権 肖像権 ルール マナー	○自分や他者の情報を大切に、ルールを守って安全に情報手段を使うことを知る。コンピュータやインターネットの基本的なルールやマナーを知る。	○自分や他者の情報を大切に、ルールを守って安全に情報手段を使うことを 理解 することができる。生活の中で必要となる 情報セキュリティ を知り、健康な生活と情報機器の利用のバランスを考える。	○情報手段の 利便性と危険性 を知り、自分や他人への影響を考えた適切に使うこと。生活の中で必要となる 情報セキュリティ を知り、健康な生活と情報機器の利用のバランスを考える。	○情報手段の 利便性と危険性 を理解し、自分や他人への影響を考えた適切に使うこと。生活の中で必要となる 情報セキュリティ を知り、健康な生活と情報機器の利用のバランスを考える。	○ 情報収集や活用 の利便性と危険性を理解し、正しい情報活用をする。情報の信頼性を確かめ、一人判断に迷う場合は すぐに相談 する。また、情報を発信する際には、 自分の言葉に責任をもち 、他人の意見に目を向け、多様な考えを知る中で、様々な視点から物事を捉えたり 多様性を受け入れたり し、よりよく生きていこうとする。 ○健康な生活と情報機器の利用のバランスを考え、 自らの健康解決に向けて目標を設定・実行 する。	○ICT機器の利便性と危険性を十分に理解し、自分や他人への影響を考えた適切に活用できる。 ○生活の中で必要となる 情報セキュリティ を理解し、健康な生活と情報機器の利用のバランスを考えた、 自分で振り返りを行い、改善 することができる。	○情報手段の利便性と危険性を理解し、自分や他人への影響を考えた適切に活用することができる。 ○生活の中で必要となる 情報セキュリティ を理解し、健康な生活と情報機器の利用のバランスを考えた、 自分で振り返りを行い、改善 することができる。	○情報手段の利便性と危険性を理解し、自分や他人への影響を考えた適切に活用することができる。 ○生活の中で必要となる 情報セキュリティ を理解し、健康な生活と情報機器の利用のバランスを考えた、 自分で振り返りを行い、改善 することができる。	○情報手段の利便性と危険性を理解し、自分や他人への影響を考えた適切に活用することができる。 ○生活の中で必要となる 情報セキュリティ を理解し、健康な生活と情報機器の利用のバランスを考えた、 自分で振り返りを行い、改善 することができる。	
		デジタルの足あと	各種アンケート	使用環境、使用時間 (道徳・保健)	インターネットを使う際の出典の明記 (著作権・肖像権)	SNSを利用する際のルールやマナーを守る (道徳) 顔が見えない場合のコミュニケーション (道徳)	SNS利用に関する責任や法律 (道徳・学活)					
		メディアバランス	撮影のルールとマナー、Teams背景の加工方法	ID・パスワードの重要性を知る	撮影のルールとマナー、Teams背景の加工方法	タブレット・PC室・持ち帰りのルール	長期休暇及び家庭での使い方	ICT機器の利用についての調整を行う (道徳・保健)	情報技術が多様な視点から考え、よりよい生活や持続可能な社会の構築に生かそうとする。			

機能要件確認表

会社名 _____

1 共通要件

項目		No.	要件	対応可
基本設計	システム	運用管理	1 ユーザーはMicrosoftアカウントと連携し、シングルサインオンできること	
			2 同一のID・PASSにてログインが可能であること	
			3 クラウドサービスで提供され、インターネットでアクセス可能であり、メンテナンスを除き24時間365日利用できること	
	ユニバーサルデザイン	4	アクセシビリティ対応として、次のいずれかの要件を満たすこと。 ・「JIS X8341-3:2016」が規定する「レベルAA」に準拠 ・背景色、文字の大きさ、字間、行間等が変更可能	
			5 文部科学省学習指導要領に準拠、及び教科書の単元に対応し、本市が採択する教科書(別紙2「採択教科書一覧」)の単元の掲載順に合わせた問題を表示できること。	
	教材	教科書準拠	6 リース期間内に採択教科書変更、教科書改訂や指導要領改訂が行われた場合でも、最適に教材が使えるよう教科書単元データ更新等、契約期間中のバージョンアップは無償で行うこと	

2 学習ドリル教材機能要件

項目		No.	要件	回答欄
基本設計	システム	運用管理	1 自治体においても各学校の名簿を登録・編集できること。	
		ナビゲーション	2 感覚的に操作が可能であり、直感的に学習を始められること。	
	教材	問題数	3 総問題数は、小学校・中学校合計して80,000問以上であること。	
		問題形式	4 選択、並べ替え、数値入力など、問題適性に応じた形式であること。	
		対応教科及び学年	5 小学校1～6年生の国語・算数・理科・社会(理科・社会は3年生より)、中学校1～3年生の国語・数学・理科・社会・英語を収録し、該当学年以外の内容も学習できること。	
基本機能	採点	自動採点	6 児童生徒が解答した内容に対して即時に自動採点されること。	
	出題(AI機能)	正答状況別	7 問題に不正解した際、個別最適なフォロー問題が出題されること。	
		習熟度別	8 児童生徒の学習状況及び習熟度に応じて、一人一人に最適な問題を出題できること。	
教員機能	確認	取組状況の把握	9 教員が児童生徒の取組状況をリアルタイムで把握でき、個別指導等に生かせる仕組みを有すること。	
		指導や評価等への活用	10 教員が児童生徒ごとの学習結果、学習回数等の情報を一元的に確認でき、普段の指導や学期を通じた評価等に活用できること。	
	配信	問題の配信	11 教員が任意の問題をクラス一斉又は個別に出題できること。	
		AIによるワーク(問題集)の生成	12 設定した単元や時間、難易度、児童生徒の習熟度に応じて、AIが問題を自動で選択し、ワーク(問題集)として出題できること。	
児童生徒機能	その他	正誤状況や正答率の確認	13 児童生徒は、学習履歴確認画面又は教材一覧画面から、取り組んだ問題の正誤状況や各単元の取組状況などの情報が一覧で確認できること。	
		手書き機能	14 手書き機能を有すること。	
		中断再開	15 誤答問題に再度取り組める機能を有し、問題の取組途中で中断しても、続きから始められること。	
		学習意欲を高める仕掛け	16 解答状況に応じてメダル等の報酬が付与されるなど、児童生徒の学習意欲を喚起する仕掛けがあること。	

3 授業支援ソフトウェア機能要件

項目		No.	要件	回答欄
基本機能	システム	運用管理	1 自治体においても各学校の名簿を登録・編集できること。	
	編集	ペン描画	2 ノート(エリア)上にペンで書き込みができること。	
		貼付け	3 ノート(エリア)上に各種メディア(図形、ふせん(カード)、画像、カメラ)を貼り付けられること。	
	発表	プレゼンテーション	4 児童生徒が編集したノート(エリア)をつなぎ合わせ、プレゼンテーションを行えること。	
	その他	テンプレート	5 学習に活用できるテンプレートを有していること。	
教員機能	配布	課題配布	6 児童生徒に対して、ノート(エリア)を課題として配布できること。	
			7 課題に対して期限を設定できること。	
		グループ配信	8 個人又は任意のグループに対して、課題を配布できること。	
	表示	課題表示	9 配布した課題と児童生徒が編集したノート(エリア)が、関連付けられて画面上に表示されること。	
		検索	10 過去に実施した授業の検索ができること。	
		拡大・比較表示	11 教員が、児童生徒が編集したノート(エリア)をリアルタイムに一覧で表示し、拡大表示や比較表示ができること。	
		管理	12 必要に応じて、教員画面から、児童生徒の操作を制限することができる	
	共同編集	同時編集	13 一つのノート(エリア)に対して、複数の児童生徒が同時に編集できる機能(共同編集機能)を有すること。	
		全体閲覧	14 共同編集機能の利用時は、児童生徒が参加者又は参加者共有のノート(エリア)を閲覧・編集できること。	
		賛同表示	15 共同編集機能の利用時は、ふせん(カード)等に対して、他の人が賛同を表示できる機能を有すること。	
	その他	評価	16 課題として配布したノート(エリア)に対して、児童生徒への評価コメントやスタンプをつけられること。	

令和7（2025）年度小学校 採択教科書一覧

（1）小学校

教科	出版社
国語	東京書籍
算数	啓林館
理科	大日本図書
社会	東京書籍
英語	東京書籍

（2）中学校

教科	出版社	
国語	光村図書	
数学	啓林館	
理科	東京書籍	
社会	地理	東京書籍
	歴史	東京書籍
	公民	東京書籍
英語	東京書籍	